

輸血医療に取り組むという共通で明確な目標

躍進する臨床検査 ～チームで取り組む輸血医療～

◎吉田 正明¹⁾

独立行政法人地域医療機能推進機構 滋賀病院¹⁾

社会的にチーム医療が呼び掛けられ、我ら臨床検査技師、なかでも輸血に従事する者は、安全な輸血医療を目指すうえで他職種との連携が不可欠なことから、学会や研修会のテーマとして取り上げるなど、積極的にチーム医療に取り組もうとしている。

滋賀県臨床検査技師会輸血細胞治療部門（以下 滋賀臨技輸細部門）では、平成 23 年度より医師および看護師を主たる受講対象者や演者とした研修会を企画開催し、輸血に従事する多様な職種がそれぞれ違う視点で輸血医療を考える機会として一定の評価を得ている。また、学会認定・臨床輸血看護師（以下 認定看護師）制度資格審査対象の研修会として認められているため、研修会の機会が少ない認定看護師および認定を目指す看護師にとって必要な単位数を取得する機会となっている。テーマや会場について検討を重ねながら年 1 回、過去 7 年開催し、看護師の参加者数は開催ごとに増減があるが、平成 28 年度および 29 年度は全参加者中の約 3 割が看護師であった。

ただし、技師会予算を用いる研修会において対象者に他職種を含めることについての是非を問われることや、企画を検査技師以外に案内し参加を呼び掛ける広報面などの問題は検討も必要である。

さらに、認定看護師など輸血に関心を持つ職種以外の参加者が少ないことは、関与する全ての職種を対象として安全で適正な輸血医療を学ぶ機会とする趣意に対しており大いなる悩みの一つである。その認定看護師の参加率においても、普及が遅れる滋賀県内よりも大阪府や兵庫県からの参加が多いことから、認定看護師制度を先導する医師や看護師の有無の影響を強く感じ、それらの方々からの指導と助力を得る必要と、チーム医療の必要性を述べる臨床検査技師も、それらの方々がお集まりの場への積極的な参加が必要であると思われる。

ところで、チームと辞書引くと『共通の目的、達成すべき目標、そのための方策を共有し、連帯責任を果たせる補完的なスキルを備えた少人数の集合体』とある。

また、厚生労働省のチーム医療の推進に関する検討会報告書によるとチーム医療とは『医療に従事する多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提に

目的と情報を共有し、業務を分担しつつもお互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供すること』とある。

臨床検査技師は、輸血関連検査だけでなく、血液製剤の管理や出庫、輸血副作用を検索・把握する業務に携わる。輸血安全性の担保のために院内における輸血環境を整備している場合も多い。

医師は、患者の全身状態を把握し、輸血の必要性を判断し、輸血後はその評価をおこなう。適正な輸血に努めることも使命の一つである。

看護師は患者の輸血開始前・実施中・終了後の患者の状態確認や副作用の対応など、ベッドサイドで発生する諸問題を把握し対応する。

各医療機関は、その他にも薬剤師、臨床工学技士など、それぞれの高い専門性スキルを備えた多種多様な医療スタッフの集合体である。

他職種の意見に耳を傾け、ときには他職種の主張の疑わしき点も善意に解釈し、あるいは建設的に反応するという価値観を集約することがチーム医療に繋がると考える。前述の滋賀臨技輸細部門研修会も、開催を開始した頃の他職種への輸血教育というスタンスから、現在は他職種がお互いに意見を交換しつつ輸血について考える会として変移した。

チームで輸血医療について取り組むということの共通の目的は、安全で適正な輸血を提供するという明確な事である。今後は専門学会の総会だけでなく、輸血に関与する様々な職種が相互に協力する研修会が多く開催されることが望まれる。

注) 『』内は引用文

地域医療機能推進機構 滋賀病院
統括診療部検査輸血 077-537-3101 (8205)